

カラスガレイ オホーツク公海

Pacific bluefin tuna *Thunnus orientalis*



管理・関係機関

農林水産省

生物学的特性

- 最大体長・体重：1.2 m（下顎先端～尾鰭基底）・34.5 kg
- 寿命：10 歳以上
- 性成熟年齢：雄 不明、雌 8～9 歳以降
- 産卵期・産卵場：秋～冬、詳細不明
- 索餌期・索餌場：不明、大陸棚上及び大陸棚斜面
- 食性：スケトウダラ等の魚類及びイカ類
- 捕食者：シャチ等

利用・用途

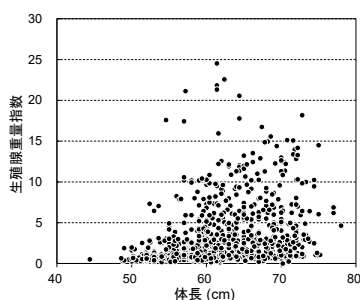
切り身、寿司ネタや惣菜用として利用される。

漁業の特徴

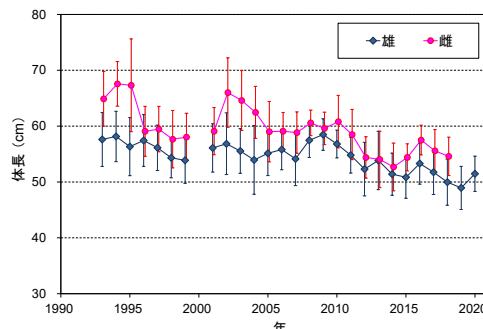
オホーツク公海はロシア水域に囲まれ、本資源は周辺のロシア水域大陸棚斜面に分布する資源と連続すると考えられる。1980 年代半ばに、北海道の漁船（知事許可船）が本資源を対象に公海で底刺網の試験操業を開始し、間もなく本格操業に移行した。1992 年以降、公海での操業と並行してロシア水域での操業が行われたが、2001 年以降はロシア水域での操業は許可されておらず、公海でのみの操業となっている。本資源の漁業は、2000 年度に北海道知事許可漁業から大臣承認漁業に移行し、さらに 2007 年度に特定大臣許可漁業となった。その後、2020 年 12 月 1 日に改正漁業法が施行され、特定大臣許可漁業から大臣許可漁業となった。海水が発達する 12～4 月は休漁としている。漁業開始時の 1980 年代には 5～6 隻が出漁し、使用網数は 1,600 百～2,400 百反程度であったが、操業隻数の減少とともに網数は減少し、2000 年代半ば以降は 1～2 隻 100 百～500 百反程度となった。直近の 2021～2023 年は、漁期中に操業船がなく、休漁した。なお、本資源を対象とした他国の漁業はない。

漁獲の動向

1980 年代の漁業開始時の漁獲量は 4,000 トンを超え、単位努力量当たりの漁獲量（CPUE、ここでは刺網 1 反当たり漁獲量）も 20～30 kg/反程度の高い値を示していたが、1990 年代中頃に漁獲量は 13～767 トン、CPUE は 3.1～8.8 kg/反の低水準に落ち込んだ。1992 年以降 2000 年まで、漁獲努力の一部がロシア水域に向けられていたことが、漁獲量の減少をもたらした一面はあるが、CPUE の経年的な変動は 1990 年代中頃の資源水準が低かった可能性を示している。公海操業のみとなった 2001 年以降では、漁獲量は 119～1,672 トン、CPUE は 6.3～22.1 kg/反で推移した。操業があった直近の 2020 年の漁獲量は 128 トンで、2019 年（341 トン）より 213 トン減少した。CPUE は 5.5kg/反であり、漁業開始時と比較して低位水準であった。



カラスガレイ（雌）の生殖腺重量指数



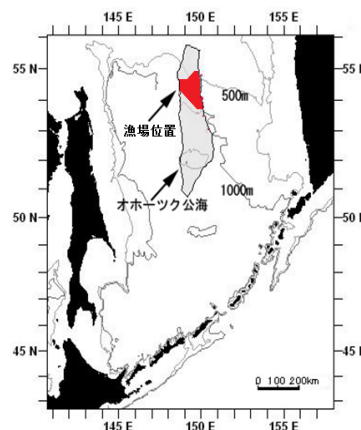
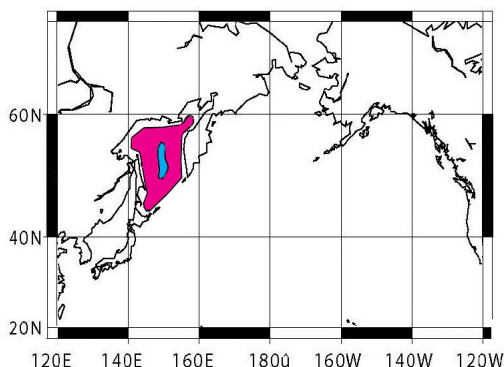
カラスガレイ漁獲物の体長（平均値 ± 標準偏差、1993～2020 年）
2019、2020 年は雌の標本数が少なく、漁獲物の体長組成を十分反映していない可能性があることから、雄のみを示した。

資源状態

漁業形態が変化している中での動態ではあるが、CPUE の推移から資源水準を判断すると、漁業開始時の 1980 年代の高位な時期から、1990 年代中頃に低水準となり、1990 年代後半から 2002 年までは中位から低位水準の間で変動していた。漁業形態の変化の影響も考慮する必要があるが、近年の資源水準（CPUE）は低位にあり、その動向も減少と判断される。

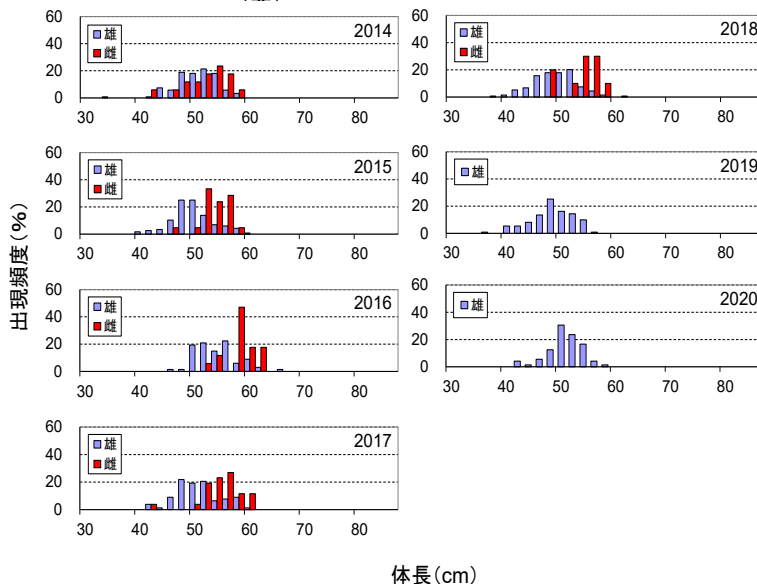
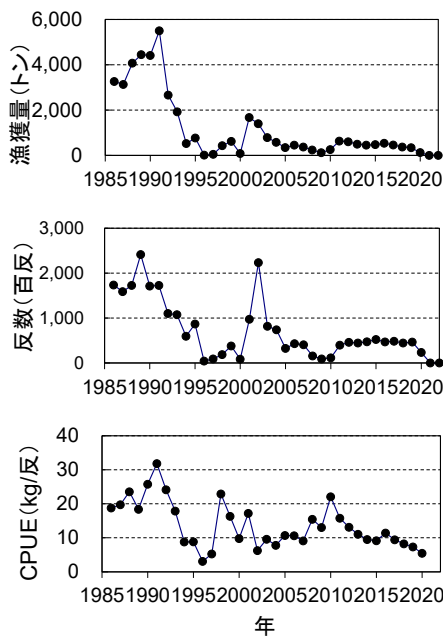
管理方策

本資源は隣接するロシア水域大陸棚斜面に分布する資源と連続していることから、公海域の漁業管理のみによる資源保全では十分ではない。現在は操業隻数が 2 隻以下に限られ、さらに冬期には結氷のため漁業ができないことにより、実質的に漁獲努力量が制限されている。また、使用漁具の網目は結節から結節までの長さを 12cm 以上として小型魚の漁獲を防止している。今後、極端に CPUE を低下させることのないような適正な漁獲努力の配分を行うことで、資源を将来に渡り持続的に利用することが可能と思われる。そのためには漁業情報収集体制の維持と漁獲物標本分析によるモニタリングが必要である。なお、隣接するロシア北オホーツク小海区における本種の総漁獲可能量（TAC）は 2021 年までおよそ 4,800～6,900 トン、2022 年は 2,540 トン、2023 年は 1,770 トンとなっており、この海区も含めたロシア水域大陸棚海域における 1991～2001 年の平均漁獲量は 4,300 トンである。



オホーツク海カラスガレイ分布域（赤）及びオホーツク公海の漁場（青）

オホーツク公海（灰）における近年の漁場位置（±）



オホーツク公海におけるカラスガレイ漁獲量（上図）、努力量（中図）及び CPUE（下図）（1986～2022 年、漁獲成績報告書に基づく）
2021、2022 年は操業がなかったため、CPUE は欠測。

カラスガレイ漁獲物の体長組成（2014～2020 年）
2019、2020 年は雌の標本数が少なく、漁獲物の体長組成を十分反映していない可能性があることから、雄の体長組成のみを示した。

カラスガレイ（オホーツク公海）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 （最近 5 年間）	オホーツク公海における他国の漁獲は確認されていない
我が国の漁獲量 （最近 5 年間）	128～534 トン 最近（2020）年：128 トン 平均：366 トン（2016～2020 年）
資源評価の方法	操業船 CPUE の動向により水準と動向を評価
資源の状態 （資源評価結果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPUE（5.5 kg/反、2020 年） ・ 資源水準 1986 年～2020 年の CPUE の最高値～最低値を三等分して、高位・中位・低位として資源水準を評価すると、資源水準は低位。 ・ 資源動向 公海漁場のみでの操業となった 2002 年以降の CPUE の推移で資源動向を評価すると、資源動向は減少
管理目標	資源水準の回復
管理措置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大臣許可漁業制に基づく操業船隻数許可 ・ 小型魚の漁獲を防止 （網目の結節から結節までの長さ 12 cm 以上） ・ 冬期間結氷のため休漁
管理機関・関係機関	農林水産省
最新の資源評価年	2020 年（CPUE の得られた最新年）
次回の資源評価年	未定